

# BOAT RACER'S HOTLINE

藤田俊祐

Shunsuke FUJITA

成績は5月21日現在

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期 勝率	通算 勝率	通算 1着	通算 優出	通算 優勝	2024年賞金	生涯賞金
5226	東京	東京	129	23	A2	5.81	4.96	109	7	0	1745万1000円	5409万4279円



目指すはA1級再昇格、そしてその先へ「家庭のためにも、もっと強くなりたい」

○デビュー後、即結婚

— 東京都江戸川区出身。  
家の近くにボートレース江戸川がありました。小さい頃から親に「ボートレーサーになれ!」と言われてきました。中学生になって初めてレースを見に行つて「将来この職業に就けたらいいな」と思いましたね。

— 養成所の受験は?

— 大学に入って、1年生の時に受験しました。大学にはボートレーサーになれなかった時の保険のために入った感じですね。レーサーになるという気持ちが強かった。養成所は一発合格できたので、大学はすぐに辞めました。

— レーサーデビュー。初勝利までに約10か月。

— 時間はかかりましたね。それでも、焦らずやっていました。初勝利を挙げたその節に2勝目もできたんですが、1勝したら見える世界が変わりましたね。

— 21年11月にデビューして、ここまで(5月末時点)切ったフライングはわずか1本。

— 確かに少ない方だと思います。あまり早いスタートは行かないようにしています。平均は16くらいで、際どいのは行かないので。

— 実はデビューしてすぐに結婚して、子供もいるんです。そこもフライングができない理由のひとつ。家庭がありますから、そんなに休むことはできない。まして、当時はB級ですから。それでも勝負どころは行くようにしていますよ。タイミングとしては10を全速

で行けたら完璧だと思います。0台のスタートはリスクが高いかな。間違いがあったらいけないですからね。

— 求めている調整は?

— 出足がいい節は割といい成績を残せていると思います。伸びは普通くらいで、出足に花丸つくような仕上がりがいいですね。後はターン回りでですね。確かに伸びを付けることが主流になっているとは思いますが、でも自分の現状としては出足とターンの足で勝負!という考え方ですね。

○記念での戦い

— 23年11月、戸田で右足骨折の大怪我。

— A2級に上がってこれから...という時でした。前の艇と入れ替わる時に舟が引つ掛かって落水して骨折しました。お医者さんからは「復帰までは半年」と言われたんですが、4か月で復帰することができました。焦ってもボートに乗れるわけではないし、その間は治療に専念しました。

— 復帰後すぐに勝率6点台を残して、次の期にはA1級初昇格。

— 復帰してすぐに自分に合ったプロペラの形が見つかったんです。同期の若林樹蘭選手にアドバイスをもらったものなんですけどね。出足型に仕上がるプロペラで、それが大きかった。いいエンジンも引くことも多かったんですが、悪いエンジンでも普通よりは仕上がっていましたね。流れがいい時はエンジンの引きもいいんですよ。

ね。

— ヤングダービー、関東地区選手権、平和島周年とGIを経験。

— もまれて、もまれて...成績を下げましたね。思うようには走れなかった。やっぱりエンジン出しがまだまだですね。一般戦とは出し方が違う。ターンでは普通のエンジン力があれば戦えるかな...とは感じました。ただ、エンジンの引き出しに関してはレベルが違う。そこはもっと磨かないといけないですね。

○展示がポイント

— 今後に向けて。

— もう1度、A1級に戻ることでですね。エンジンを出すためにはプロペラはもちろん、整備もしないといけない。整備はやる方ですよ。やりすぎでおかしくなってしまうこともある。整備は好きです。良くなることは5回に1回くらいです。

— 藤田俊祐の見るべきところ。

— 周回展示を気持ち良く乗っている時ですね。ライブでも、映像でもいいですから見て欲しい。タイムは気にしていません。もちろんタイムが出ていたら嬉しいですけどね。ターンでウィリーできていたら足は仕上がっていますよ。

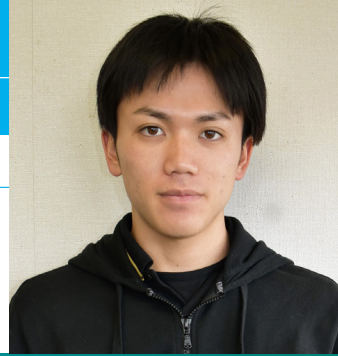
— 将来的な目標は?

— 同期の活躍がすごすぎるので。西岡顕心に藤原碧生...。自分なりに頑張らないといけないですね。家庭があるんで(笑)。

# BOAT RACER'S HOTLINE

中山翔太 Makiko YAMAGUCHI

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5256	三重	三重	130	21	A2	6.24	4.57	88	5	0	2041万5158円	4562万9516円



## 父と通った津、運命を変えたグランプリ 「峰竜太選手の優勝が、僕をボートレーサーにした」

○グランプリに魅せられて  
——レーサーを目指したのは？

小さな頃から父と一緒にボートレース津に行っていました。そして、中学生の時にグランプリを見に住之江まで行ったんです。峰竜太選手が優勝した時なんですけど、それがもうかっこ良すぎて、歓声もスゴくて。そこからですね。ボートレーサーになろう！とちゃんと思ったのは。強烈に印象に残っています。

——養成所の受験はいつから？

高校1年生の頃からですね。合格したのは3回目の受験で、高校3年生に上がるタイミングでした。勝負しようとか高校はすぐに中退しました。

——養成所の思い出は？

ボートに乗ることは楽しかったけど、スマホが持てないから、生活の面では厳しかったですね。ただ、僕はまだマシだったかな。同期でも社会人とかを経験しているような年上の人たちはもっと大変な思いをしたんじゃないでしょうか。訓練はうまくいかなしいことはいっぱいあったけど、苦にはならなかったです。ただ、学科がヤバかった。単純に頭が悪くて、普通に成績が悪かった。操縦とか整備に関しては悪くなかったと思います。

——デビューしてからは成績が右肩上がり。

それでも思ったより勝率が取れていないイメージです。デビューした月に1着が取れたのは、展開が良かったから。まくり差で勝つことができた。それよりも6着

が多くて、もう少し点数は取れたかな…と思います。

——養成所とプロの違いは？

みんな何もかもが早い。旋回もスタートも作業も、何から何まで違いますね。全くついていけない感じでした。同期の中ではいい成績だったかもしれないけれど、納得はしていませんでしたよ。

——デビュー3期目に勝率は2点台から一気に4点台へ。1着回数も激増した。

今思えば、最初は守りに入っていました。レースでもまずは転ばないように、3周しっかり走ることばかりを考えていた。それは当たり前前で、そうしないとダメなんですけれど、守りに入り過ぎていた面もあると思います。例えば3番手で出てきたら、3着をキープすることだけを考えてターンしていた。

最近は一ひとつでも前へ、ひとつでも前へ…という気持ちで、転覆しても仕方ないと割り切ってレースをするようになりました。そうしたら考えることが少なくなっていて、いい方向に向いた感じがします。レースに対する考え方や気持ちの持ち方の違いだと思います。技量自体は今もそこまで上がってはいないと思います。

○上の舞台へ！

——自身の売りは？

勝負はターンと思っています。調整面も伸び系ではなく、ターンの回りを重視しています。いろいろな調整を試してはみましたけど、

回り足、出足、行き足を重視した方が自分には合っていますね。

——25年後期勝率は6・24。

ポンポンと数字は上がっていますけど、やっぱりA級に上がるということにより、番組が良くなるという点はあると思います。自分が本命を背負うようなメンバーと対戦するケースも多くなる。もちろん、プレッシャーもありますけれど、そこで結果を出すことができますれば、勝率はより上がってきますね。

——優出5回で2着が3回。

優勝を狙っているんですけどね…。自分は1節で1回は失敗(大きな着)することがある。優勝するにはミスが許されない。もっとエンジンをつけて、落ち着いてスタートを行って成績をまとめたいいけないですね。

——将来の目標は？

SGなんてポン…と行けるわけではない。師匠の松井洪弥さんや同県の豊田健士郎選手がG1レースで走っているの、そこに自分も混じって戦うことができればと思っています。そのためにもまずはA1級に上がる。そして、9月のヤングダービーに出たいと思っています。

——師匠・松井洪弥選手について。

めちゃくちゃ優しいです。おこられたことがない。しかもめちゃくちゃ熱心に教えてくれるんです。最高の師匠です。僕は「ほめられて伸びる」タイプだと思うので、松井さんのような師匠が合っているかな…と思います(笑)。